

ICT導入による看護業務改善を目指す病院への アドバイザー派遣事業を利用した結果

医療法人 啓清会
関東脳神経外科病院

施設概要

病院の理念

- 一、患者の健康を最優先に考え、安全で質の高い医療を提供することを目指します。
- 一、社会に貢献する医療サービスを提供します。
- 一、共通認識を持ったチームで効果的で効率的な医療を提供します。
- 一、職員は仕事とプライベートの調和を重視しながら自己成長を追求します。



所在地	埼玉県熊谷市代1120
病床数	149床(令和7年3月1日現在)
主に算定している入院基本料	急性期一般入院料4、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、回復期リハビリテーション病棟入院料 3
職員数	222名(令和7年3月1日現在) うち看護要員92名(看護師55名、准看護師17名、看護補助者20名)
患者数	令和5年度 入院患者数1,650名、退院患者数1,656名(うち看取り患者数126名)
看護部の理念 (患者へのケア方針)	患者の生命・人格・人権を尊重し適切な看護を提供します 個人に関するすべての秘密を守ります 地域との連携を密にし、救急体制を整え地域に貢献します 仕事に誇りを持ち、看護レベル向上に努めます
看護提供方式	チームナーシング
看護記録方式	経時記録方式
現在使用している看護機材	ナースコール・センサー等
看護師の離職率	令和5年度 新人看護師100%(1/1)、その他看護師16.5%
問い合わせ先	TEL 048-521-3133

本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

- 看護業務改善を実施する背景として、看護部の人員不足と業務の逼迫がある。
- 特に急性期の患者を多く受け入れる当院では、看護師の離職率が15%を超えるなど、従来、常勤換算で80人いた看護師が離職により、2024年現在70人まで減少しており、10対1の看護体制をどうにか維持できている状況に直面している。
- このため、ICT導入や看護DXにより最低限の人数で効率的に病棟を運営しつつも、看護の質をより高めていきたく、本事業への参画を決定した。

本事業を活用した目的・目標

- 当院は、「ペーパーレスな病院」「残業のない病院」「患者様と向き合う時間を最優先にする病院」を実現していきたいと考えている。
- 具体的には、書類作成やデータ入力など間接業務の負担を軽減し、緊急対応が必要な場合にも余力を持って取り組めるようにしたい。
- また、患者様とのコミュニケーションやベッドサイドケアの時間を最優先に確保し、職員と患者様双方の満足度をより向上させていきたい。

取り組み予定期間と主な内容

期間		主な取り組み内容
令和6年	7～9月	「3病棟(高度急性期・急性期)」、「2病棟(急性期)」を本事業における業務改善対象範囲として、業務課題に関する調査を実施 - 調査結果に基づく業務課題の把握及び課題に対処するICT機器等の検討
	10～3月	- 優先的に対処する課題の選定 - 検討したICT機器の導入に関してベンダーの選定・ヒアリング - 翌年度以降を含めたICT導入による看護業務改善計画の策定
令和7年度		- 選定したICT機器の導入 - 現場への使用方法のレクチャー
令和8年度		- 導入後のICT機器の効果測定 1～2年目の取組の振り返り、4年目以降で取り組むべき課題の洗い出し
令和9年度以降		3年目に洗い出された課題への取組

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

- 看護師の疲弊やモチベーション低下の要因となっている、電子カルテへの患者情報の入力や申し送り、インシデント防止のための見守り、入院患者受け入れ時の対応等を見直し改善する

目標

- 患者ケアの充実:患者と向き合う時間を増やし、看護師の働く満足感・やりがいを高める
- 医療安全の徹底:インシデントやクレームを減らし、安全で安楽な環境を維持する
- カンファレンスのこまめな実施:患者に提供する看護の質を高め、患者の満足度を高める

取組予定内容(業務改善を行う業務)

	業務改善内容	検討されている ICT機器等	想定削減可能時間 (分/日/人)
1	○経時記録の入力 - 記録開示や監査、診療報酬改定に耐えうる記載にすべく記録が増えている - 何を書くべきか明確になっていないため、特に新人看護師は記録量が多く、記載に時間がかかる	アプリケーションによる看護記録作成・管理	90

※所要時間等は3病棟のみで計算

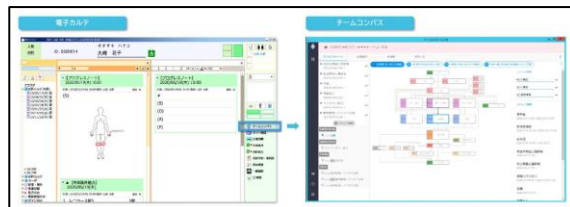
【参考：チームコンパスに関する概要】

チームコンパス

PCAPSと業務効率化アプリを統合した看護記録ソフトウェア。看護師間の知識や経験のばらつきを標準化し、提供される看護ケアや記録内容、評価方法を統一する

製品の概要

- ・ チームコンパスとは、安全で質の高い医療を提供するために、職員間の知識・経験のばらつきを標準化できるよう開発された医療情報記録システム
- ・ 前提条件として、電子カルテの導入が必要（ベンダーによっては連携不可）。また、Androidでの入力是对应可能だが、iPhoneは対応不可
- ・ 主に以下の3つの機能が搭載されており、患者状態の可視化、観察・ケア項目やその評価を統一し、提供される看護ケアや記録内容を標準化
 - ・ 看護実践用語標準マスタ：厚労省が定めた看護用語の定義・基準が取り込まれ、統一された用語・スケールを用いて選択式で記録できる
 - ・ 看護ナビ：患者の疾患・症状に応じて必要な看護ケア・観察項目が提示され、看護師が適切な観察・ケア項目を考える工数が軽減する
 - ・ PCAPS：時間軸ではなく、患者の状態に適応したパスが展開されるため、多様な状況に合わせた観察・ケア項目が選択できる



課題と期待される効果

課題

- ・ 記録が叙述的かつ長文になりがちで、入力時間も長い
 - ✓ 本来記録すべき内容が曖昧なため、余分な記録が増え、入力時間が長引く
- ・ 看護記録の内容や看護ケアの質が人によってばらつく
 - ✓ 看護師各自の経験や保有する知識によって、患者へ提供される看護ケアや、記録の内容が異なる

期待される効果

- ・ 情報収集時間、記録時間が短くなる
 - ✓ カルテを開くとすぐに患者像や現在の状況・留意すべき点等が把握できる
 - ✓ 患者の状態に応じて記録すべき項目を選択式で入力できるため、テキスト形式で入力する必要がなく、入力時間を短縮できる
- ・ 提供される看護ケアの質が標準化される
 - ✓ 疾患・症状に応じて観察項目を設定でき、経過表と連動しているため、経験年数によらず適切な観察・ケアが実施できる

ICT導入により見込まれる効果

#	製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
		定性or定量	測定したい効果			
1	チームコンパス	定量	記録時間や記録漏れの減少率	看護記録入力時間や記録漏れの削減率を測定	50%減	導入1か月前・導入3か月後
			クリニカルパス適用率の向上	導入前後のデータを比較し、効果を定量的に評価	80%up	導入1か月前・導入3か月後
		定性	患者満足度の向上	アンケート調査や患者のフィードバックを通じて測定	90%up	導入1か月前・導入3か月後

今後の展望

継続的な 業務改善

- 本計画で発足したICT導入推進チームは計画完了後も月に1度は定例会を実施し、継続して効率化できる業務がないかを検討

他病棟・他職種 への波及

- ICT導入推進チームはより幅広い病棟、職種からの参画を検討し、病院全体でペーパーレス化の促進と患者様と向き合う時間を創出

ご清聴ありがとうございました